



# 看護栄養学部だより

公立大学法人  
山口県立大学  
Yamaguchi Prefectural University

発行 山口県立大学看護栄養学部 〒753-8502 山口市宮野下 TEL 083-933-1450 FAX 083-933-1483  
山口県立大学：<http://www.ypu.jp/> 看護栄養学部：[http://www.ypu.jp/index.php?M\\_ID=6](http://www.ypu.jp/index.php?M_ID=6)

## 第4号

### 「大学で学ぶ」とは？



山口県立大学 看護栄養学部長 長坂 祐二

高校までの勉強と、大学での勉強の違いは为什么呢。「高校では、社会人としての最低限の常識を身につけるために、様々な教科を幅広く学び、大学では、専門職としての知識と技術を狭く、深く学ぶ」と考えている人が多いのではないのでしょうか。しかし、実際に高校で学ぶことは、学習指導要領で範囲が規定されているので、決して広いとはいえません。一方、大学で学ぶ専門知識には、ここまで学ばば十分という明確な境界があるわけではなく、決して狭いとはいえません。看護や栄養など医療分野の専門知識は日々進歩しています。病気で苦しんでいる患者さんを前にして、「新しい知識や技術について知らなかった」というのは、言い訳になりません。専門職であるからこそ、幅広い知識と技術を身につける必要があります。

もう1つ、高校までの勉強と、大学での勉強で大きく違うことがあります。高校までの勉強では、基本的には正解があります。正解と不正解の基準がはっきりしていないと入学試験を行うことができないからです。よく「正しい専門知識を身につけて」ということをいいますが、大学の勉強では、正しいことと誤っていることの境界がはっきりしないことがあります。教科書に正しいことが書いてあるとは限りません。このようにいうと戸惑うかもしれませんが、大学での勉強では、「正しいかどうかわからないことを、自分で調べて、自分で考え、自分で判断する」ことが大切になります。もちろん、看護学科も栄養学科も国家試験がありますから、その時点での「正しい知識」を身につけておくことは最低限必要なことです。しかし、今日正しいと考えられていたことが、明日間違っていることが証明されるかもしれません。国家試験の出題基準に示された限られた知識や技術を覚えるだけでなく、常に自分で新しい知識や技術を手に入れて更新する方法を身につけることが、卒業後に本当に役立つ実力を養成することにつながると思います。

### 第9回 山口看護学会

(旧 山口県看護学研究会)

日時 平成22年10月2日(土)  
会場 山口県立大学6号館 F204講義室  
内容

一般演題報告 (現在演題募集中)  
教育講演 「私たち看護職の可能性」

NKN/Nursing Knowledge Network 代表  
渋谷 美香 氏

### 第3回「桜栄会」行事を開催

2008年に発足した栄養学科同窓会「桜栄会」も今年で3年目を迎え、6月12日に総会ならびに研修会を開催しました。今年は旧教員もお招きし、卒業生は昔懐かしい時間を、在学生は栄養学科の歴史を感じる時間を共有しました。詳しくは栄養学科HP「桜栄会」をご覧ください。

## 看護学科長からのメッセージ



### 看護教育は 転換期に

看護学科長  
中村仁志

新年度が始まり、この前期の間、新入生は高校生の顔から大学生の顔に変わり、元気な様子で大学での学習に取り組んでいます。

今年度、看護系大学は、県内3校、全国で190校を超え、200校に迫る勢いです。看護教育の主体が専門学校から大学へなりつつあると言えます。受験生は看護系大学から自分の目的にあった大学を選ぶ選択肢がますます増えている中、大学では受験生にアピールできる特色を強く打ち出す事が求められています。

看護教育では、平成20年に保健師助産師看護師学校養成所指定規則等の一部の改正が行われ、看護学科では昨年度より新しいカリキュラムがスタートしています。さらに平成21年には保健師助産師看護師及び看護師等の人材確保の促進に関する法律が一部改正され、それによって大学4年間の保健師、助産師の資格取得教育が大きく変わろうとしています。これらは、看護基礎教育の中で「看護実践能力」を獲得する力を養うための改正であり、「看護を取り巻く環境の変化」、「新人看護職員の臨床能力の低下」などの問題に対応していくための改正です。こうした時代のニーズを反映した改正は、看護の教育が大きな転換期に来ていることを示しています。今後、こうした動きに合わせて、社会の健康に対するニーズに答えられる看護学科として日々、進歩していかなければなりません。

看護学科は学生数の少ない学科です。そのため、学生一人ひとりにきめ細かな指導が出来る体制を整えています。保健医療の現場で生かせる看護実践能力を養う教育を心がけながら、今後とも発展していきたいと考えています。皆様の暖かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## 栄養学科長からのメッセージ



### 栄養学科は 元気いっぱい

栄養学科長  
乃木章子

管理栄養士の活躍の場は、病院、学校、地域、企業等、職域も対象も多種多様で、専門性もそれぞれ特化していきます。しかし、どのような環境であれ、対象者を中心に、チームの一員として協働し専門性を発揮できる人材が求められることには違いはありません。そこで、栄養学科では現在、管理栄養士の多彩なキャリアに対応した実践的体験的教育プログラムの構築に取り組み、専門教育の効果を最大限に活かす課外活動を推進しています。今回はその一部を紹介したいと思います。

現在進行中の課外活動には、「食育戦隊ゴハンジャー」による小学生を対象とした食育プロジェクト、「やまぐち食べちやる隊」による学生食堂での地産地消メニューの提供、学生を対象とした食育活動「お弁当の日」などがあります。いずれも、自主参加のため学年を超えたチームで編成され、先輩後輩一緒になって放課後や休日を使って活動します。また、学生主体で活動を推進していくため、目的達成に向けて、深く思考し、激しく議論し、作業を分担し、泣いたり笑ったりを繰り返しながら、コミュニケーション・スキルやチームワーク、リーダーシップ、課題解決能力などを少しずつ修得しているようです。これらは大卒者に求められる学士力の根幹を成す重要なスキルであり、社会人としての基礎力となり、管理栄養士の専門性を力強く支えるものと確信しています。私たち教員は、最終的に達成感で満ち溢れた学生の笑顔を見ることが何よりの楽しみです。どんどん逞しく大きくなってもらいたいものです。

## 看護栄養学部学生近況報告

看護学科1年 鈴木芽依

胸に期待と不安を抱えながら山口県立大学に入学して、あっという間に3ヵ月が過ぎてしまいました。自宅から電車で通学する生活スタイルにも慣れ、多くの友人にも恵まれ、毎日忙しいながらも楽しい充実した日々を過ごしています。初めて看護専門教科の講義を受け、難しいと感じる部分もありますが、日々友人と助け合い頑張っています。

大学では「クラス」という形がないため、先生方との関わりが薄くなってしまっているのでは…?と心配していたのですが、山口県立大学では、週に1度「基礎セミナー」(環境に対する意識や知識を高めたりする学習)という時間があり、「学生約10人に1人の先生」というスタイルを作っているため、先生方ともしっかりと関わりを持つことができ、安心して大学生活を送ることができています。

私は「地域共生演習」という講義を受けています。様々な場所に行き、地域の方々の話を聞いたり、茶摘みのお手伝いをしたりと活動は様々です。山口市内のお祭りに参加したり、地域興しをすることもできます。私は実際に1泊2日で演習に行き、その地域の食べ物や自然に触れたりして、今までにない経験をする事ができました。

大学に入学して3ヵ月しかたっていませんが、本当に充実していて色々な経験をしています。これからの4年間がとても楽しみです。毎日をより充実させ、将来をしっかりと見据えて頑張っていきたいと思います。



栄養学科1年 山城龍之介

入学してからおよそ3ヶ月、1年生の皆さんはもう大学生活に慣れてきたでしょうか。学校での生活は高校時代と比べてだいぶ楽にはなりましたが、1人暮らしになったせいかその他の生活面で

は非常に忙しくなりました。

さて、僕はまだサークルなどには入っていませんが、先日行われた水無月祭の実行委員として活動しました。担当は体育で、午前中に1年生のみで行われる学科別対抗グラウンド競技の企画運営をしたのですが、器具の不具合や怪我人が出たりなどいくつか反省すべき点がありました。看護栄養合同チームは残念ながら優勝は逃しましたが、皆で汗を流し協力し合うことで団結力を高める良い機会になったと思います。

水無月祭が終わり、今一番力を入れて活動しているのは基礎セミナーのグループ活動と管理栄養士基礎演習です。基礎セミナーの私たちのグループでは、蛍光灯の効率的な使用法を考えることから、消費電力を削減し環境への負荷軽減を目指しています。管理栄養士基礎演習は、管理栄養士を目指している学生にとっては非常に大切な授業で、様々な現場で働く管理栄養士の方々の業務内容を見学させていただき、理解を深めることを目的としています。しかし、事前学習によると病院などのホームページには、管理栄養士についての情報などはほとんど掲載されていないことがわかり、ネットなどでの調べ学習の限界と見学実習を行う重要性を感じました。

人間の性質としてどうしても明日というものを考えてしまいます。今出来ることなのに、「明日があるから」「今日じゃなくてもいいや」「最終的に良ければいいや」というように。悔いのない4年間を過ごすためには、悔いのない1日を心がけていくことが大切だと思いますし、それを目指して頑張っていきたいと思います。



看護学科2年 大倉実佳

大学生活も二年目に突入し、1人暮らしや毎週出される課題にも、だいぶ慣れてきたこの頃です。

1年次、どちらかというと理論中心だった授業の内容も、2年次からは実践的な技術が中心となり、その練習のため授業時間外で演習室にいる時

間がぐっと増えました。

現在私たちは、山口赤十字病院において週一回の実習を行っています。一年の後期、初めての実習では、院内の見学をしたり、看護師さんのうしろを付いて回ったり、カルテを読んだりといったことが中心で、患者さんとはベッド脇でお話するだけで、関わる機会はほとんどありませんでしたが、今回の実習では、始めから1人の患者さんを受け持ち、毎週変わるテーマに沿って常にその患者さんのアセスメントをしています。当然患者さんと関わる時間は増え、その方の抱えている疾患や、性格、発達段階、入院するまでの経緯などから、その方に今必要な援助、また、既に行われている援助の意味を自分達で考えていきます。これが簡単ようで難しく、理解して学習していたつもりでもいつの間にか脱線してしまい、なかなか苦戦しています。

実習では、失敗や反省の連続です。しかし、授業で習得した技術や援助を実際に患者さんに提供できたときの喜びや達成感はとても大きなものです。また、私たちには失敗しても支えてくれる仲間や先生方がいます。そういった意味でも、この大学で実習に参加することに対して大きな意味を感じています。

実習最終日から交換学習会に向け、さらに学びを深め、頑張っていきたいと思えます。



### 栄養学科2年 小林 功 弥

山口県立大学に入学して1年が経ち、2年生の前期ももうすぐ終わろうとしています。私は高校3年生の途中までは進学はせずに就職をするつもりでした。しかし、母や姉に勧められて進学の道を選びました。受験勉強をしているときは「自分が今やっていることは全て無駄になるかもしれない」「そうなったとき自分はどうすればいいのか、そうなったとき自分は耐えられるのだろうか」などを考えていました。そんな自分だから、入学当初は「授業についていけるのか」「女子学生が多いなかでうまくやっていけるのか」など、たくさんの不安と期待が入り混じっていました。しかし、勉強、サークル、ボランティア活動などをがむしゃらにやって過ごしていたら不安が楽しさに変わり、

とても充実した生活になっていました。

今の私の将来の夢は高校の家庭科教員になることです。悩みが多く、精神的に不安定で生活習慣も乱れやすい年頃の子もたちを、先生という形で支えていけたらと考えています。また、部活動でテニス部の顧問などになって高校生と一緒に楽しむこともできたらいいなと思っています。現在の課題は、ひとつひとつのことに集中して、中途半端にならないように物事に取り組めるようになることです。自分に足りていないものは山ほどありますが、焦り過ぎると全てがだめになるので、余裕をもってはじめをつけながら前進して行きたいと思います。理想の自分を目指して、これからの2年間半を有意義に過ごしていきたいです。



### 看護学科3年 末 永 めぐみ

こんにちは。私は看護学科3年末永めぐみです。3年生は今、成人看護学実習Ⅰと老年看護学実習の最中であり、月一木曜日まで病院での実習が続いています。サークルやバイトなどをしている子も多いですが、自分の時間をうまく調整して学業との両立を図っています。特に、実習から帰ってくるとみんなで話し合いをしたり、記録を書いたりして、みんなで実習を乗り切ろうとする雰囲気があり、みんなに刺激を受けながら毎日を過ごすことができています。

私たちが看護を学び始めて3年目になり、各々のやりたいこと、進みたい分野も分かれてきました。多くの人と出会う中で、経験をし、話を聞くことで少しずつ大きくなってきているのではないかと思います。編入生と授業を受ける機会が増え、今まで気づかなかったことにも目を向けられるようになりました。来年は4年生として国試や卒論などに取り組んでいかなければなりません。今、みんなで一緒にいられるこの時間を大切に、今できること1つ1つに真摯に取り組んでいきたいと思っています。



### 看護学科編入3年 長岡孝典

大学に編入学して3カ月が過ぎ、大学生活にも慣れ、編入生の仲間や学部生、また他学部の先輩・後輩などさまざまな人々と授業や部活動などの交流を通して、刺激の多い生活を過ごしています。大学での講義は、高校や専門学校とは異なりより学生が学習に対して自主的になることが求められることから、今までの学習スタイルとの違いの部分と日々格闘しています。編入生同士、同じ時間を過ごすことが多いため、お互いにコミュニケーションをとりながら、仲良くキャンパスライフを送っています。

また、学習以外で部活動に関して私は、大学に入学後すぐに、野球部『Blue Hages』に入部しました。このチームは学部学年問わず、さまざまなプレイヤー、マネージャーから構成されており、とてもいい雰囲気です。6月には佐賀で行われた全国大会にも出場することができ、今は次の大会に向けて日々練習に励んでいます。常に野球のことしか頭にない私ですが、野球をする上で私はいつも「見て盗む」ということを心がけています。これは、周りをよく見るという観察力という面と、他のプレイヤーの上手い技術から学ぶ柔軟性を意味しています。このことは、看護の面においても十分につながっていると思っています。看護の面でも患者様をケアする上では観察力や柔軟性はとても重要なスキルであると思います。

今後の大学生活でも、自分の目標に向かって、一期一会を大切に過ごしていけたらと思っています。



### 栄養学科3年 野尻はるか

気づけば大学生活も折り返しの時期をむかえる3年の前期が過ぎようとしています。3年となって給食経営管理実習では今までとは異なり、多くの方に食べていただく大量調理が始まりました。多くの方の嗜好にあった味付けや調理法を考えると、経営管理の方法など2年生のころに比べ内容の濃いものとなり、日々学びの一日となっています。また臨床医学入門実習や臨床栄養学実習では、患者さんの事例に合わせて実際に献立をたてることや、話し合いを行い、自分たちで病状を決定づけていくなど将来のための実践が多くなってきているのを感じます。授業以外の活動としては「食育」「YPU SWEETS COMPANY」など栄養学科を中心として活動を行っています。「食育」では実際に子どもたちとふれあい、食の大切さを伝えることの大変さや子どもたちと触れ合うことの難しさを感じています。「YPU SWEETS COMPANY」では今あるYPUクッキーを生かしつつ、もっと良いものを開発していくために学年関係なく協力してプロジェクトを進めています。また3年となり部活動も節目の年となりました。私は山口大学の水泳部マネージャーとして1年生のころから通っています。最初は山に行くことに不安と行く意味の疑問はありましたが、今は県大とは違う学科の人と関係を持てること、行動範囲が広がったことで自分にとってプラスになっている気がします。

最後にこれからも管理栄養士として深い知識を得て、より充実した日々を大切にし残り半分の大学生活を過ごしていきたいと思っています。



### 栄養学科編入3年 吉田和矢

山口県立大学に入学して早3ヶ月が経ちました。学生生活の1日1日は本当にあつと言う間に過ぎていきます。私は2年間栄養士養成施設の短大で勉強してきましたが、管理栄養士により1歩でも近づくために編入することにしました。本学では授業の幅も専門性も大きく違い、連日のレポートの嵐、実験の駄目だしに戸惑いながらも

日々奮闘しています。なかなか一人では成し得ないことも、同期の編入生や先輩の方々に助けられ、課題や実習・実験などに取り組んでいます。編入のため授業によっては学年の離れた学生とも授業を共にすることもあります。年齢の違いを感じさせないほど親しみを持って接してくれています。学生の皆さんが真面目に、そして熱心に物事に取り組んでいる姿を見てよい刺激を受けています。

最近、県立大学に入学して強く感じるがありますが、それは短大とは違う良さです。種々のバックグラウンドを持った先生方、様々な分野の学生たちが集まっている大学の多様性は、新しいことに挑戦するための大きな力になっていることです。

現在、栄養学科とは離れたところで、過去の経験を活かし、TOEICセミナーのTA（ティーチングアシスタント）として活動しています。そのようなチャンスを頂いたことにとっても感謝しています。これからも、TAだけにとどまることなく、短い学生生活をもっと充実したものにしていきたいと思えます。



#### 看護学科4年 平岡理沙

私たち看護学科4年生は、6月から7月にかけて母性・小児・精神看護学実習を行っています。大学生としての日々も終わりに近づき、卒業アルバムの写真撮影など、仲間との思い出作りも欠かせません。

4年生になると授業はあまり入らなくなりますが、暇なわけではありません。実習の他は、それぞれのゼミで卒業研究の話し合いや文献検索をしたり、2月の国家試験に向けて今までの学習を振り返る自主勉強をしたりしています。助産師課程に進んだ学生は、集中的な講義を終えた後、夏の実習に向けた準備に奔走中です。また保健師や養護教諭を志望する学生は、ひと足速く就職に向けて進んでいます。

志を同じくする者同士、同じ机やパソコン画面の前に集まって作業をしている時、やるべきことは山積みですが、1人ではない心強さがあります。友人同士で学びあうことで互いに新たな発見や学びを得たり、知識を深めあったり、自分の看護観

が高まっていくことが感じられました。

また4年生同士の会話の中で、現在もっとも熱くなれる話題が、卒業後の進路についてです。自分は将来どのような看護職として働きたいか、どのような病院なら自分の力を伸ばしていけるか、様々な募集先をリサーチしながら就活に向けて動いています。

大学生活最後の1年間を有意義に過ごすため、そして将来への第一歩を踏み出すため、看護4年生はこの1分1秒を惜しむように頑張っています！



#### 栄養学科4年 政所かよみ

私たち栄養学科の4年生は、各研究室に分かれて卒業研究や国家試験に向けての勉強に取り組んでいます。授業の数が少なくなり、今の時期は臨地実習や就職活動などで学外に行く学生も多く、全員が集まれる機会があまりないため、少し寂しく感じるときもあります。

私自身は、大学の講義やグループワーク、病院での臨地実習を経験して、また多くの人との出会いを通して、将来どんな管理栄養士でありたいか、どういう方向に行きたいかという曖昧だった目標がやっと定まりました。大学生活を振り返るとつらいこともありましたが、それを乗り越えられたのも共に学んできた仲間、先生方、そして家族の支えがあったからだ日々感謝するばかりです。

失敗することや、無駄に思うこともありますが、その経験や日々の積み重ねはきっと将来に生かされるはず。わからないことは何でもすぐに聞けるのが学生の特権だと思います。失敗を恐れないでいろいろなことに貪欲に挑戦し、残り半年となった学生生活を無駄にしないよう、一日一日を大切に過ごしていきたいです。

勉強も！遊びも！バイトも！就活も！精一杯頑張るぞー!!!



# 卒業生は今...



平成13年度 看護学科卒業  
山口大学医学部附属病院

## 本田 紫子

山口県立大学を卒業し、看護師として働き始めて9年目となりました。現在は、山口大学医学部附属病院に勤務し、消化器外科、乳腺・内分泌外科で日々忙しいながらも充実した毎日を送っています。働き始めた当初から自分がやりたい看護が何か、一つでもいいから自分が自信を持ってできることを見つけないかという思いを持っていました。そんな中で、自分が興味を持ったのは乳がん看護でした。5年目に入り本格的に乳がん看護の勉強を始め、翌年乳がん看護認定看護師になることを目指して千葉大学へ

研修へ行き、多くの知識と仲間を得ました。無事に認定試験に合格し、現在乳がん看護認定看護師として3年目を迎えています。それに加えて、乳がんや子宮癌術後の合併症の一つであるリンパ浮腫へのケアを学び、リンパドレナージュセラピスト（中級）としての資格も得て、認定看護師として、セラピストとして週1回リンパ浮腫外来や月1回リンパ浮腫セルフケア講習会を担当しています。

多くの資格を得ることは仕事も責任も増し大変です。しかしながら、多くの知識・技術を得ることで看護の質が高まり、患者様を十分に理解した上で適切な看護を提供することができ、より一層やりがいを感じています。これからも私は看護について学び、看護とは何か探求していきたいと考えています。

### 平成21年度卒業生進路状況 看護学科

事 項	人 数		
	計	県 内	県 外
進 学	1	0	1
就 職	51	26	25
(内 訳)			
看護 師	33	12	21
保 健 師	6	5	1
助 産 師	6	5	1
養 護 教 諭	5	4	1
教 員	1	0	1
合 計	52	26	26

卒業生数 52名

### 平成21年度卒業生進路状況 栄養学科

事 項	人 数		
	計	県 内	県 外
進 学	6	1	5
就 職	28	14	14
(内 訳)			
病 院	12	6	6
福 祉 施 設	3	2	1
行 政 栄 養 士	2	0	2
学 校 栄 養 士	4	3	1
食 品 販 売 サ ー ビ ス	1	0	1
給 食 受 託 会 社	2	1	1
栄 養 教 諭	1	1	0
家 庭 科 教 諭	1	0	1
公 務 員 (一 般 職)	1	0	1
一 般 企 業	1	1	0
合 計	34	15	19

卒業生数 34名

### 看護学科・栄養学科 学生数

		(人)
看護学科	4年生	59
	3年生	64
	2年生	51
	1年生	56
栄養学科	4年生	47
	3年生	48
	2年生	41
	1年生	43

平成22年4月1日現在

## 平成21年度実験実習費預かり金決算報告

(学生から徴収する教育研究充実費)

### 【看護学科】

#### <収入の部>

(単位：円)

費 目	合 計	1 年 生	2 年 生	3 年 生	4 年 生	3 年 編 入	4 年 編 入	合 計
徴収金 (一人当徴収額)	5,355,000	1,590,000 (30,000)	765,000 (15,000)	1,500,000 (30,000)	1,100,000 (25,000)	200,000 (20,000)	200,000 (25,000)	5,355,000
前年度からの繰越金	9,000	2,208	2,125	2,083	1,833	417	334	9,000
雑収入(受取利子)	1,221	300	288	282	249	57	45	1,221
合 計	5,365,221	1,592,508	767,413	1,502,365	1,102,082	200,474	200,379	5,365,221

#### <支出の部>

(単位：円)

費 目	合 計	1 年 生	2 年 生	3 年 生	4 年 生	3 年 編 入	4 年 編 入	合 計	備 考
臨地実習費	1,837,833	663,667	188,123	772,707	172,499	33,176	7,661	1,837,833	実習要項他
学習援助費	2,017,648	468,173	510,658	409,499	500,853	67,800	60,665	2,017,648	教材実費他
学生返金 (一人当返金額)	1,483,700	455,800 (8,600)	66,300 (1,300)	303,800 (6,200)	426,800 (9,700)	99,000 (9,900)	132,000 (16,500)	1,483,700	
休学者返金	15,000			15,000				15,000	
次年度繰越金	11,040	4,868	2,332	1,359	1,930	498	53	11,040	
合 計	5,365,221	1,592,508	767,413	1,487,365	1,102,082	200,474	200,379	5,365,221	

\*教育研究充実費は実費弁済として徴収しておりますので各学年徴収額が異なります。

\*1年生は、臨地実習費に小児感染症検査科・聴診器代が含まれます。 \*返金後の端数は繰越金としています。

## 【栄養学科】

<収入の部>

(単位：円)

費 目	1 年生 (41人)	2 年生 (42人)	3 年生 (47人) (編入学生を含む)	合 計
徴 収 額 (学生一人当たり徴収額)	348,500 (8,500)	1,222,200 (29,100)	629,800 (13,400)	2,200,500
利 子				416
合 計				2,200,916

<支出の部>

(単位：円)

費 目	1 年生 (41人)	2 年生 (42人)	3 年生 (47人) (編入学生を含む)	合 計
実験実習費支出額	257,586	1,062,187	513,073	1,832,846
学生返金額* (学生1人当たりの返金額*)	91,020 (2,220)	160,020 (3,810)	117,030 (2,490)	368,070
合 計*	348,606	1,222,207	630,103	2,200,916

\* 利子を含む

2010年3月31日 看護栄養学部長 藤村 孝枝  
(生活科学部栄養学科(4年生)は教授会にて決算報告をしています)

## 新入教員自己紹介



看護学科 吉村 耕一

4月1日付で看護学科に着任しました。担当科目は、人体構造機能学Ⅰ・Ⅱと臨床病態学Ⅰです。

1988年に山口大学医学部を卒業した後、これまで医師として主に血管外科の臨床に長らく携わってきました。同時にこの10年間は、大動脈瘤などの原因不明な循環器疾患の病態解明と新規治療法開発のための基礎医学研究にも従事してきました。本学では、これらの背景と経験を十分に活用して、実践的な学問を学生さんたちに伝授する考えです。そうすることで、自主的・総合的な思考力を持ち、創造力・応用力に満ちた人材、さらには目紛しく変化する現代の医療・福祉に対応できる人材の育成に繋がり、ひいては健康で活力のある社会の実現に貢献できるものと期待しています。

まだまだ不慣れな点、至らぬ点が多々ありご迷惑をおかけすることもあろうかと存じますが、次世代を担う人材育成と本学の発展に力を尽くす所存ですので、何卒よろしく願いいたします。



栄養学科 草間かおる

この度、栄養学科に着任しました草間かおると申します。担当は公衆栄養学です。

これまでは病院での管理栄養士の経験のほか、大学や研究機関等で研究や教育を行ってきました。現在行っている研究の分野は、栄養学的ハイリスク者に対する栄養評価と食生活支援についてで、おもに妊産婦や高齢者を対象としてきました。またカンボジア国立小児病院における給食支援も行っています。

今までの研究や教育の中で一番難しいと思ってきたことの一つに「他職種との連携」があります。現在の地域保健福祉において最も重要かつ一番不足しているところです。管理栄養士は、医療でも福祉でも地域でも、医療従事者のなかでは少数であり、他職種と一緒に業務や事業を実施して行く場面が数多くあります。本学では、看護学科、栄養学科、社会福祉学科の3学科による実習等がなされており、他職種が共に学び、共に行動し、他職種を理解することで、卒業後、実際の現場において他大学の学生と比べると他職種との連携がスムーズなのではないかと思いました。

7月に赴任したばかりで不慣れなところが数多くありますが、皆様と一緒に考えて取り組みたいと思います。何とぞよろしく願いいたします。

### 編集後記

看護栄養学部の「今」をお伝えできるよう、編集を心がけました。学生みなさんのお一人おひとりをイメージしながらお読みいただけましたら幸いです。個性煌めく看護栄養学部としてますます発展するよう、学生・教職員一緒になって進んでいきます。

編集委員 田中マキ子・島田和子